

OASIS 27(1) 2017
〔No.98 June 2017〕

News and Communications of
The Japanese Association for
Arid Land Studies

おあしす



日本沙漠学会 2017 年度 第 28 回学術大会 (5 月 27 ~ 28 日 千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス)

上段：参加者集合。

中段 (左から右へ)：大会実行委員長の矢沢勇樹会員，公開シンポジウムの和田浩二氏 (千葉工業大学 PERC 副所長代行)，荒井朋子氏 (千葉工業大学 PERC 主席研究員)，石丸亮氏 (千葉工業大学 PERC 研究員)。

下段：エクスカーションとして見学した Area I (左，ロボット技術)，Area II (右，惑星探査研究)。

日本沙漠学会 2017 年度 第 28 回学術大会・評議員会・総会記事（総務報告）

◇2017 年度学術大会報告

2017 年 5 月 27 日（土）～ 28 日（日）に千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス（〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2）にて第 28 回学術大会を開催した。開催にあたり小島紀徳会長より挨拶があり、2016 年 7 月より学会事務を担当している株式会社共立の三角誠司氏と齋藤哲治が紹介された。

5 月 27 日（土）における学術大会では、研究発表会セッション 1・2（発表数 8 題）、ポスター発表コアタイム（発表数 16 題）、総会、公開シンポジウム、懇親会を順に開催した。総会内容については概要を後述する。

公開シンポジウムでは、「☆（ほし）の沙漠に映された地球」をテーマに、「千葉工業大学 PERC の今後のミッション」、「隕石と流星の研究から地球と生命の成り立ちを考える」、「宇宙における生命を探る 3 つのアプローチ宇宙塵・泥火山・系外惑星」の 3 講演を行った。その後、懇親会を PRONTO 東京ソラマチ店で開催した。懇親会中、ベストポスター賞の授与式が行われ、竹内舞子会員他の「耕作放棄された谷戸田を囲む森林の機能性と今後の課題」と、杉浦総一郎会員他の「コウライシバ (*Zoysia matrella* Merr.) による塩類集積緩和効果」に授与された。さらに、石巻専修大学における次期 29 回学術大会開催予定についての案内がなされた。

5 月 28 日（日）は、研究発表セッション 3・4（発表数 9 題）が開催され、閉会式で 2 日間の学術大会を終了した。

◇第 30 回評議員会報告

2017 年 4 月 15 日（土）、女性センターブーケ 21（東京都中央区湊 1-1-1）にて第 30 回評議員会が開催された。小島紀徳会長を議長として、① 2016 年度学会賞の審査報告（学会賞選考委員会・白石雅美委員長と豊田裕道幹事より説明）、② 2017 年度総会資料提出議案について（鈴木伸治務担当理事より説明）、③ その他、について各々提案され承認された。詳細は「学会記事」掲載の議事録を参照されたい。

◇2017 年度日本沙漠学会総会報告・学会賞授与報告

総会報告・・・5 月 27 日（土）14:00～15:00、千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス・ルーム A において開催した。正・名誉会員数 284 名に対して、出席者数 35 名、委任状数 69 名、合計 104 名で総会が成立したことが総務担当鈴木理事より報告があった。総会の開催にあたり小島紀徳会長より挨拶があり、その後藤巻晴行会員を議長として選出し、承認の後に議事を進めた。総務担当鈴木伸治理事より 2016 年度事業報告がなされ、続いて財務担当矢沢勇樹理事より決算報告、そして中村徹・高橋新平監事より会計監査報告が各々説明され、その後承認された。さらに、2017 年度事業計画（案）・予算（案）について両理事から説明がなされ承認された。また、学会賞審査報告が学会賞選考委員会白石雅美委員長より報告がなされ、2016 年度は学会賞の該当者がなかったことが報告された。

◇総会資料

1. 2016 年度事業報告・決算報告・会計監査報告

(1) 2016 年度事業報告

1) 会務報告

a. 会員 2017 年 3 月 31 日現在、会員数は以下の通り。

名誉会員：安部征雄 門村 浩 都留信也 真木太一 吉野正敏（5 名）

正会員：279 名 学生会員：36 名 賛助会員：4 社 購読会員：7 機関

b. 会議

(a) 日本沙漠学会 2016 年度総会

2016 年 5 月 28 日（土）鳥取大学乾燥地研究センターにて開催した。総会の概要を「おあしす」No. 94（2016 年 6 月）に掲載した。

(b) 評議員会（第 29 回）

2016 年 4 月 15 日（金）東京農業大学世田谷キャンパス（7 号館 1 階木工室）において開催した。議事概要を「おあしす」No. 94（2016 年 6 月）に掲載した。

(c) 理事会

2016 年度中に第 124～128 回理事会を計 5 回開催した。第 124、125 回議事録を「おあしす」No. 94（2016

年6月)に、第126回議事録を「おあしす」No. 95 (2016年9月)に、第127回議事録を「おあしす」No. 96 (2016年12月)に、第128回議事録を「おあしす」No. 97 (2017年3月)に各々掲載した。

(d) 編集委員会

沙漠研究 Vol. 26 No. 1～Vol. 26 No. 4を編集し発行した。さらにE-mailによって委員会内における審議を行った。

(e) 学会賞審査委員会

2016年度の学会賞審査委員会を2017年3月28日(火)に開催した。また2016年5月28日(土)、第27回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行った。さらにE-mail等によって委員会内における情報交換を行った。

2) 刊行物

a. 日本沙漠学会誌「沙漠研究」

Vol. 26 No. 1 (2016年6月), Vol. 26 No. 2 (2016年9月)

Vol. 26 No. 3 (2016年12月), Vol. 26 No. 4 (2017年3月)

b. ニューズレター「おあしす」

No. 94 (2016年6月), No. 95 (2016年9月)

No. 96 (2016年12月), No. 97 (2017年3月)

c. 日本沙漠学会講演要旨集

第27集 (第27回学術大会, 2016年5月28日～5月29日)

d. 学会ホームページによる情報提供

学会ホームページによる活動状況に関する情報提供を行った。理事会, 分科会, シンポジウム, 関連学協会の催事等の開催案内と報告等をタイムリーに掲載し更新した。

3) 講演会及び研究会等の開催

a. 第27回学術大会: 2016年5月28日(土)～5月29日(日), 鳥取大学乾燥地研究センターにおいて, 一般研究発表(口頭発表16題, ポスター発表11題)を行った。ポスター発表のうちの2つがベストポスター賞を受賞した。公開シンポジウムでは, 「砂漠化の歴史を編む」をテーマに5つの講演と総合討論を行った。学会賞(1名)の授与式ならびに受賞者講演会を行った。

b. 2016年度秋季シンポジウム: 2016年10月15日(土)名古屋学院大学さかえサテライトにおいて, 「中央アジアにおけるラクダ牧畜ーラクダと人間の相互交渉の歴史と現状ー」をテーマに6つの講演と総合討論を行った。参加者26名。

c. その他

日本緑化工学会乾燥地緑化研究部会第22回シンポジウム「西アフリカの乾燥・半乾燥地における緑化への取り組み」(2017年1月22日, 東京都市大学二子玉川夢キャンパス)を共催した。また, 第59回風に関するシンポジウム(主催:日本地理学会, 2017年3月13日(月), 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館)を共催した。

4) 分科会等の活動

a. 沙漠工学分科会: (2017年3月31日現在, 登録者数: 143名)

会長: 田島 淳 (東京農業大学)

幹事: 鈴木伸治 (東京農業大学)

連絡先(事務局): 〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1

東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科

Tel: 03-5477-2351, Fax: 03-5477-2620

E-mail: s4suzuki@nodai.ac.jp

活動実績: 2017年3月22日, 東京農業大学世田谷キャンパスにおいて第30回講演会を東京農業大学総合研究所沙漠緑化研究部会と共催で開催した。講演会のテーマは『沙漠工学応用の最前線』。演者は以下の通り。(1)「モンゴル苗木生産センターにおける活動の紹介」, 花田重義氏(NPO法人エコアライアンス21), (2)「アグロフォレストリーによる砂漠化防止対策」, 松原英治氏(国際農林業協働協会), (3)「リーダーの意思決定に着目した震災復興プロセスの評価」, 稲田幸三氏(佐藤工業株式会社)。参加者40名。

b. 乾燥地農学分科会: (2017年3月31日現在, 登録者数: 181名)

会長: 石川祐一 (秋田県立大学)

連絡先(事務局): 〒914-0041 東京都町田市玉川学園8-3-23

(株)アースアンドヒューマンコーポレーション 気付

FAX : 018-872-1677

E-mail : owner-cadal@ijinet.or.jp

活動実績 : (1) 2016年11月17日, 第25回講演会「アフリカ支援: TICAD VI を終えて—日本の援助はどう変わるのか?」のテーマで開催した. 話題提供者と演題は北野尚宏 (JICA 研究所) 「TICA-VI の概要とフォローアップ」, 大場武 (東海大学) 「カメルーン火山湖ガス災害防止の総合対策と人材育成」, Fadoumo Ali Malow (東京農業大学) 「Japan and Djibouti: Building capacities for sustainable agricultural development and food security」, 長井宏治 (NTC インターナショナル(株)) 「社会安定化の促進のために農業開発プロジェクトができることとは—ニジェールサヘル地域における酸化型技術移転の事例から」である (以上, 敬称略). 19名の参加者を得た. (2) 分科会機関紙「CADAL ニュース」第62号を2017年3月3日に発行, 182部を分科会会員ならびに講演会参加者に配布した. (3) 分科会の活動状況をさらに広く周知するための情報発信法として, 分科会 Web ページを学会ホームページ下に移設した. (4) メーリングリストを開設・運用している. 関連する講演会・シンポジウムの開催および参加者の情報提供等に利用されている.

c. 沙漠誌分科会 : (2017年3月31日現在, 会員数 : 66名)

会 長 : 縄田浩志 (秋田大学国際資源学部)

連絡先 (事務局) : 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学人文社会科学系 渡邊三津子

E-mail : sabakushi.c@gmail.com

活動実績 : (1) 2016年5月27日 (金), 鳥取大学乾燥地科学研究センターで開催される第27回日本沙漠学会学術大会に先立ち, 沙漠誌分科会2016年度総会を開催した. (2) 2017年2月9日 (木), 東京都目黒区の田道住区センター第二会議室にて, 沙漠誌分科会研究会・梅村坦先生講演会「新疆ウイグル自治区巡検の経験から」を開催した. (3) 2017年2月28日 (火), 東京都目黒区の田道住区センター第二会議室にて, 沙漠誌分科会研究会・原 隆一先生講演会「イラン農村調査研究の再考—大野先生のフィールド帖を読みかえして—」を開催した. (4) 2016年7月28日 (木) 秋田大学手形キャンパス60周年記念ホールで開催されたシンポジウム「サウジアラビア: エネルギー資源, 文化, 環境対応」を共催した. (5) 2016年11月19日 (土), 秋田大学手形キャンパス国際資源学部3F講義室にて開催された「中東と南アジアの外来移入種メスキート問題—砂漠化対処から水・エネルギー・食料の資源ネクサスへ—」に協力した. (6) 2015年1月31日に開催された研究会「熱帯地域における酒と発酵食品」に関する小特集が, 日本沙漠学会誌「沙漠研究」Vol. 26 No. 2に掲載された.

d. 風送ダスト研究会 : (2017年3月31日現在, 会員数 : 12名)

会 長 : 黒崎泰典 (鳥取大学)

連絡先 (事務局) : 〒680-0001 鳥取市浜坂 1390

鳥取大学 乾燥地研究センター

TEL : 0857-21-7032, FAX : 0857-29-6199

活動実績 : 2016年12月4日, 鳥取大学乾燥地研究センターにおいて, 鳥取大学乾燥地研究センター・科学研究費基盤(S)「乾燥地災害学の体系化研究」(代表: 篠田雅人) との共催で「砂漠化の歴史を編む」第3回シンポジウムを開催した. 発表件数は4件, 参加者は23名であった. 当日のプログラムは以下の通り. (1) 砂漠化の歴史を編む: 趣旨説明 (篠田雅人, 名古屋大学), (2) 黄砂飛来と気候変動: 最終氷期から現在まで (長島佳菜, JAMSTEC), (3) モンゴル帝国の興亡と遊牧 (白石典之, 新潟大学), (4) メソポタミア文明の興亡と灌漑農業 (藤巻晴行, 鳥取大学), (5) コメント / 総合討論

※同シンポジウムの第1回は日本沙漠学会第27回学術大会公開シンポジウム (2016年5月28日) として開催された.

5) 国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

- a. Desert Technology XIII 開催への協力.
- b. 日本地球惑星科学連合での活動.
- c. 地理学連携機構・地理関連学会連合への協力.

(2) 2016 年度決算報告

日本沙漠学会 2016 年度 決算

(2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	費 目	決 算 額	予 算 額	対予算額増減	摘 要
収 入 の 部	繰越金	8,232,066	8,232,066	—	
	会 費	2,250,000	2,882,000	-632,000	
	1) 入 会 金	21,000	20,000	1,000	正会員 9 名, 学生会員 12 名
	2) 正 会 員 費	1,674,000	2,472,000	-798,000	150 名 (+過年度及び前納 60 名)
	3) 学 生 会 員 費	105,000	120,000	-15,000	15 名 (+過年度及び前納 6 名)
	4) 購 読 会 員 費	100,000	70,000	30,000	7 機関 (+過年度)
	5) 賛 助 会 員 費	350,000	200,000	150,000	4 社 (+過年度)
	助 成 金	0	0	0	
	その他収入	436,707	370,000	66,707	
	1) 出 版 費	434,000	360,000	74,000	Vol. 25 (2), Vol. 26 (1), Vol. 26 (2)
2) そ の 他	2,707	10,000	-7,293	利息他	
(小 計)	2,686,707	3,252,000	-565,293		
合 計	10,918,773	11,484,066	-565,293		
支 出 の 部	加盟団体会費	0	10,000	-10,000	
	学会誌発行費	1,859,198	2,350,000	-490,802	
	1) 印 刷 費	1,616,656	1,800,000	-183,344	Vol. 25 (4), Vol. 26 (1) - Vol. 26 (3)
	2) 編 集 費	0	300,000	-300,000	
	3) 発 送 費	242,542	250,000	-7,458	発送手数料・メール便
	活動準備金	261,946	505,000	-243,054	
	1) 大 会 預 託 金	89,233	200,000	-110,767	5/28～5/29 鳥取大学乾燥地研究センター
	2) シンポジウム預託金	10,413	100,000	-89,587	秋季シンポジウム開催経費
	3) 分科会交付金	162,300	205,000	-42,700	2 分科会 (乾燥地農学 & 沙漠工学)
	表 彰 費	8,874	20,000	-11,126	
	会 議 費	2,500	30,000	-27,500	理事会会場費
	事務運営費	288,304	500,000	-211,696	
	1) 通 信・輸 送 費	35,928	100,000	-64,072	振込手数料 会費請求等郵送代
	2) 印 刷 費	227,946	200,000	27,946	総会・会議資料 選挙関連印刷発送費
	3) 事 務 費	3,640	50,000	-46,360	消耗品費等
4) 人 件 費	0	50,000	-50,000		
5) 交 通 費	0	50,000	-50,000		
6) 諸 雑 費	20,790	50,000	-29,210	Web サーバー管理費	
学会業務等外部委託費	374,220	500,000	-125,780		
予 備 費	0	200,000	-200,000		
(小 計)	2,795,042	4,115,000	-1,319,958		
次年度繰越金	8,123,731	7,369,066	754,665		
合 計	10,918,773	11,484,066	-565,293		

(3) 貸借対照表および監査報告

貸借対照表

(2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
郵便振込口座	7,590,066	借入金	0
三菱東京UFJ銀行(旧)	455,649	次期繰越金	8,123,731
三菱東京UFJ銀行	64,832		
現金	13,184		
合計	8,123,731	合計	8,123,731

会計監査報告

日本沙漠学会2016年度会計報告に基づき、帳簿・帳票類を監査したところ、適正に運営されたことを確認いたしました。

2017年4月10日

日本沙漠学会 監事

中村 徹



日本沙漠学会 監事

高橋 新平



2. 2017～2019年度日本沙漠学会役員選出結果の報告および新規役員(案)の承認

会長 吉川 賢

副会長 渡邊文雄 森尾貴広

監事 矢沢勇樹 田中 徹

理事(総務担当) 鈴木伸治 島田沢彦

(財務担当) 中村 徹 高橋新平

(編集担当) 酒井裕司 小島紀徳

(企画担当) 窪田順平* 小長谷有紀*

(学会賞担当) 豊田裕道 渡邊三津子

評議員 石川祐一 今村 薫 岩本 彰* 牛木久雄 小長谷有紀*

川端良子 北村義信 窪田順平* 小島紀徳 児玉香菜子

酒井裕司 白石雅美 菅沼秀樹 鈴木伸治 高橋新平

田島 淳 橋 隆一* 豊田裕道 中村 徹 縄田浩志

平田昌弘 藤巻晴行 的場泰信 三木直子* 森尾貴広

矢沢勇樹 吉川 賢 渡邊文雄 渡邊三津子

顧問 安部征雄 岩本 彰

理事と評議員のうち、*は会長選任。それ以外は選挙当選者。顧問は理事会で選任。

(参考)

委員会

総務委員会 (*¹委員長)鈴木伸治*¹ 島田沢彦 (Web Master) 橋 隆一財務委員会 (*¹委員長)高橋新平*¹ 中村 徹編集委員会 (*¹委員長 *²副委員長 *³編集事務局)酒井裕司*¹ 小島紀徳*² 川端良子*² 安部征雄 石川祐一

入江光輝 梅村 坦 甲斐憲次 加藤 茂 北村義信

斉藤昌宏 佐藤周一*³ 周 建中 白石雅美 菅沼秀樹鈴木伸治 高橋新平 田島 淳 館野治代*³ 豊田裕道

中村 徹 長島秀樹 縄田浩志 平田昌弘 的場泰信

森尾貴広 吉川 賢 渡邊三津子

企画委員会 (*¹委員長)窪田順平*¹ 小長谷有紀学会賞審査委員会 (*¹委員長 *²幹事)豊田裕道*¹ 渡邊三津子*² 上原有恒 平田昌弘

3. 2017 年度事業計画及び予算 (案)

(1) 2017 年度事業計画 (案)

1) 会務

a. 会員 2017 年 4 月 1 日現在, 会員数は以下の通り.

名誉会員: 安部征雄 門村 浩 都留信也 真木太一 吉野正敏 (5 名)

正 会 員: 279 名 学生会員: 36 名

賛助会員: 4 社 購読会員: 7 機関

b. 会議

(a) 日本沙漠学会 2017 年度総会: 2017 年 5 月 27 日 (土) 千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパスにて開催.

(b) 評議員会: 2017 年 4 月 15 日 (土) 女性センターブーケ 21 において既に開催 (第 30 回).

(c) 理事会: 2017 年 4 月 15 日 (土) 女性センターブーケ 21 において既に開催 (第 129 回). 他 4 回の開催.

(d) 総務委員会: 適宜開催する.

(e) 財務委員会: 適宜開催する.

(f) 編集委員会: 2017 年 5 月 26 日 (金) 工学院大学新宿キャンパスにて拡大編集委員会を開催. 他適宜開催する. 学会誌の冊子体の在り方について検討する.

(g) 企画委員会: 適宜開催する.

(h) 学会賞審査委員会: 2017 年 5 月 27 日 (土) 第 28 回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行う. また委員会を適宜開催する.

(i) 会則等改定委員会: 会長の要請により適宜開催する.

2) 刊行物

a. 日本沙漠学会誌「沙漠研究」: Vol. 27 No. 1 (2017 年 6 月), Vol. 27 No. 2 (2017 年 9 月), Vol. 27 No. 3 (2017 年 12 月), Vol. 27 No. 4 (2018 年 3 月)

b. ニュースレター「おあしす」: No. 98 (2017 年 6 月), No. 99 (2017 年 9 月), No. 100 (2017 年 12 月), No. 101 (2018 年 3 月)

c. 日本沙漠学会講演要旨集: 第 28 集 (第 28 回学術大会, 2017 年 5 月 27 ~ 5 月 28 日)

d. Web ニュースレターの適宜発行.

e. 日本沙漠学会ホームページの適宜更新, 入会案内の更新.

3) 講演会の開催

- a. 第28回学術大会
 - ・2017年5月27日(土)～5月28日(日)千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパスにて開催(研究発表会・総会・学会賞授与・シンポジウムなど).
- b. 秋季シンポジウム:
 - ・2017年10月28日(土)に筑波大学(関連施設を含む)にて開催予定.
- c. その他適宜ミニシンポジウムを開催.

4) 分科会講演会等の活動

- a. 沙漠工学分科会
 - ・2017年12月に第31回沙漠工学分科会講演会を開催.
 - ・分科会会員と関連団体組織等との交流(共同研究など).
- b. 乾燥地農学分科会
 - ・2017年11月に第26回乾燥地農学講演会を開催.
 - ・分科会機関誌「CADAL ニュース」63号を発行.
 - ・ホームページの情報更新を行なう.
 - ・メーリングリストにおける情報交換をさらに拡充.
 - ・その他,分科会会員の要望を集約し,新たな体制強化を図る.
- c. 沙漠誌分科会
 - ・2018年3月をめどに沙漠誌分科会2018年総会を開催予定.
 - ・年度内に1～2回の研究会の開催.
 - ・ホームページ, SNS, ニュースレター, メーリングリスト等を用いて情報発信を継続する.
- d. 風送ダスト研究会
 - ・風送ダスト研究会を開催する(1回程度).

5) 国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

- a. The 3rd International Conference on Arid Land (ICAL3, トルコ)開催への協力. 2017年9月を予定.
- b. Desert Technology XIII (DT XIII, インド)開催への協力. 2018年を予定.
- c. 日本地球惑星科学連合活動への協力.
- d. 地理学連携機構・地理関連学会連合活動への協力.
- e. その他国内外の講演会等への協力・関係機関との交流及び協力.

6) その他本会の目的達成のための事業

- ・必要な事業を随時開催.

(2) 2017 年度予算 (案)

日本沙漠学会 2017 年度 予算 (案)

(2017 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	費 目	予 算 額	前年度決算額	対前年度額増減	摘 要
収 入 の 部	繰越金	8,123,731	8,232,066	—	
	会 費	2,703,000	2,250,000	453,000	
	1) 入 会 金	21,000	21,000	0	
	2) 正 会 員 費	2,232,000	1,674,000	558,000	正会員数 (2017.4.1 現在) 279 名
	3) 学 生 会 員 費	180,000	105,000	75,000	学生会員数 (2017.4.1 現在) 36 名
	4) 購 読 会 員 費	70,000	100,000	-30,000	7 機関
	5) 賛 助 会 員 費	200,000	350,000	-150,000	4 社
	助 成 金	0	0	0	
	その他収入	894,880	436,707	458,173	
	1) 出 版 費	884,880	434,000	450,880	原著論文 2 報×4 号, DT XII 特集号 (Vol.26(3))
2) そ の 他	10,000	2,707	7,293	利息, 沙漠の辞典印税等	
(小 計)	3,597,880	2,686,707	911,173		
合 計	11,721,611	10,918,773	802,838		
支 出 の 部	加盟団体会費	20,000	0	20,000	日本地球惑星科学連合団体年会費 (2 年分)
	学会誌発行費	2,650,000	1,859,198	790,802	
	1) 印 刷 費	1,800,000	1,616,656	183,344	「沙漠研究」年間 4 号発行
	2) 編 集 費	600,000	0	600,000	定額にて依頼 (2016 年度・2017 年度)
	3) 発 送 費	250,000	242,542	7,458	発送手数料・メール便・郵送料 (EMS 含む)
	活動準備金	505,000	261,946	243,054	
	1) 大 会 預 託 金	200,000	89,233	110,767	学術大会開催経費
	2) シンポジウム預託金	100,000	10,413	89,587	シンポジウム開催経費
	3) 分科会交付金	205,000	162,300	42,700	3 分科会
	表 彰 費	20,000	8,874	11,126	学術賞表彰状作成
	会 議 費	30,000	2,500	27,500	評議員会・理事会経費
	事務運営費	400,000	288,304	111,696	
	1) 通 信 ・ 輸 送 費	100,000	35,928	64,072	振込手数料, 会費請求等郵送代
	2) 印 刷 費	100,000	227,946	-127,946	総会・会議資料
	3) 事 務 費	50,000	3,640	46,360	消耗品費等
4) 人 件 費	50,000	0	50,000		
5) 交 通 費	50,000	0	50,000		
6) 諸 雑 費	50,000	20,790	29,210	Web サーバー管理費等	
学会業務等外部委託費	500,000	374,220	125,780		
予 備 費	200,000	0	200,000	経常費の 5% 相当	
(小 計)	4,325,000	2,795,042	1,529,958		
次年度繰越金	7,396,611	8,123,731	-727,120		
合 計	11,721,611	10,918,773	802,838		

4. 学会賞審査報告

該当者なし。

5. その他

日本沙漠学会・第28回学術大会－報告（大会運営委員会報告）

日本沙漠学会第28回学術大会が、千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパスにおいて、2017年5月27日（土）～28日（日）に開催されました。本大会公開シンポジウムは、千葉工業大学附属研究所惑星探査研究センターとの共催で行われました。

第26回学術大会

期日：2017年5月27日（土）～28日（日）

場所：千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス

プログラム

5月27日（土）

研究発表会・セッション1
研究発表会・セッション2
ポスター発表コアタイム
総会
公開シンポジウム
懇親会

5月28日（日）

研究発表会・セッション3
研究発表会・セッション4
エクスカージョン

学術大会の概要

本大会では、4つのセッションを設けて研究発表会を行い、口頭発表17件、ポスター発表16件がありました。研究対象地は、多い順に、日本6件、中国5件、オーストラリア3件、ウズベキスタン2件、ジブチ2件、モンゴル2件、ウガンダ1件、ケニア1件、サウジアラビア1件、ニジェール1件、ミャンマー1件、モーリタニア1件、ヨルダン1件、アフリカ全域1件、その他場所を特定しないもの5件でした。

参加者数は69名（うち学生会員19名）でした。なお、次回の学術大会開催地は、石巻専修大学となりました。



研究発表会の様子

学会賞

2016年度日本沙漠学会賞は、残念ながら該当者がいませんでした。



ポスター発表コアタイムの様子

ベストポスター賞

ベストポスター賞には、東京農業大学大学院の杉浦総一郎会員他「コウライシバ (*Zoysia matrella* Merr.) による塩類集積緩和効果」と千葉工業大学大学院の竹内舞子会員他「耕作放棄された谷戸田を囲む森林の機能性と今後の課題」が受賞しました。

【ベストポスター賞受賞者のコメント】

この度は大変名誉ある賞を頂き、感謝いたします。乾燥地等で問題となっている塩類集積を解決すべく、高い耐塩性と塩分吸収特性を有するコウライシバ (*Zoysia Matrella*) の除塩効果に着目した研究をしています。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

(東京農業大学大学院 農学研究科 造園学専攻
博士後期課程1年 杉浦 総一郎)

この度はポスター賞をいただきありがとうございます。矢沢先生の御指導と研究室のメンバーの協力なくては受賞できなかったもので、研究を評価していただいたことをとてもうれしく思っております。今後も谷戸田の機能解明に向けて研究に精進していきます。

(千葉工業大学大学院 工学研究科 生命環境科学専攻
博士前期課程2年 竹内 舞子)

公開シンポジウム

公開シンポジウムは、千葉工業大学附属研究所惑星探査研究センター (PERC) との共催で行われ、大会参加者を含め52名が参加しました。まず、本大会実行委員長の矢沢勇樹 (千葉工業大学工学部) より公開シンポジウムの趣旨と千葉工業大学附属研究所の5つのセンターについて紹介し、以降の司会進行を務めました。300インチの大スクリーンが設置されている会場を用い、シアター形式で行いました。演者は千葉工業大学附属研究所 PERC の研究員3名にお願いしました。

和田浩二先生 (主席研究員, 副所長代行) より、「千葉工業大学 PERC の今後のミッション」と題して紹介いただきました。PERC では2009年の開設以来、気球による成層圏微生物の採取実験、生命起源物質の供給源候補としての流星塵の地球周回軌道からの光学観測、地球周回軌道でのダスト (塵) 衝突頻度観測、高速衝突銃を用いた微生物捕獲のための基礎実験、泥火山における生命探索、といった独自の探査的手法を駆使したアストロバイオロジーに関する研究プロジェクトを推進してきました。一方で、「はやぶさ2」、「かぐや」、「あかつき」など国家規模の宇宙機関による大規模太陽系探査ミッションにも参画し主要な役割を果たしています。PERC はこれからも、現在進行中のプロジェクトをさらに継続推進するとともに、ダストカウンターなどの独自のアイデアによる探査手法の開発や、火星衛星や流星母天体小惑星の探査といった新規の太陽系探査ミッションに参画推進することを予告いたしました。

続いて、荒井明子先生 (主席研究員) より、「隕石と流星の研究から地球と生命の成り立ちを考える」と題し、自ら手掛け



ベストポスター賞を受賞した杉浦総一郎会員 (右から2番目) と竹内舞子会員 (左から2番目)。懇親会会場にて



公開シンポジウムの様子

ているプロジェクトを紹介していただきました。流星や隕石は、地球に飛来した地球外天体のかけらであり、太陽系天体の多様性を理解し、成り立ちを解明する重要な手がかりとなります。近年、流星や隕石に含まれる有機物が、地球生命の誕生の鍵として期待されております。PERCでは、2013年より国際宇宙ステーションから2年間にわたり流星群を連続観測するプロジェクト「メテオ」を進めています。2016年3月に、3度目のロケット打上げにより無事ISSに独自に開発した観測カメラが届けられ、2016年7月7日より観測を開始しています。流星群の観測データ数が飛躍的に増え、流星群や流星群の母天体の実態が明らかになることを期待して、最新状況を紹介していただきました。加えて、荒井先生ご自身が2012年から2013年にかけて参加した米国南極隕石探査のエピソードをまじえながら、隕石からわかる太陽系の物質や成り立ちについて紹介いただきました。

3人目として、石丸 亮先生（研究員）より、「宇宙における生命を探る3つのアプローチ－宇宙塵・泥火山・系外惑星－」と題し、これまでに実施した3つのアプローチを紹介していただきました。PERCは、宇宙における生命の起源・進化・分布および未来を解明することを目的としたアストロバイオロジー研究を推進してきました。地球上にしか生命の存在は確認されていませんが、その地球生命の起源でさえも、誕生した生物によって化学進化の痕跡が消し去られてしまったため、明らかになっていません。まさに人類に残された最大の謎の一つといえます。石丸先生はこれらの謎を解き明かすために独自に開発した超小型衛星「S-CUBE」の製作過程からISSより宇宙に解き放たれるまで一連をわかりやすく説明いただきました。さらに地下深部の泥が地表に噴出して形成する泥火山について紹介があり、地下生命圏を探る「地下への窓」として貴重なフィールドとして期待されており、将来の火星生命探査を見据えた現況の研究成果を報告いただきました。

講演終了後に、同会場の300インチの大スクリーンで「宇宙138億年の旅 地球そして生命」を上映し、ダイナミックな3D映像と大迫力のサラウンドを通して、宇宙の始まりビッグバンから太陽系と地球の形成、生命の誕生と進化、人類文明の発展までの138億年を体感していただきました。

懇親会

公開シンポジウム終了後、東京スカイツリータウン・ソラマチ内のレストラン「PRONTO 東京ソラマチ店」で立食形式での懇親会が行われた。参加者は46名。また懇親会内にて、今回の大会でのベストポスター賞の授与式もそこで行われました。

エキスカージョン

学術大会終了後、同フロアに常設された千葉工業大学附属研究所の科学技術が展示されている施設Area I（ロボット技術）、Area II（惑星探査研究）を同スタッフが案内し、見学いたしました。参加者は20名程度でした。

【第28回日本沙漠学会学術大会実行委員会委員長 矢沢勇樹】

風送ダスト研究会のお知らせ

下記内容で、風送ダスト研究会を開催いたしますのでご参加ください。

研究集会：「モンゴルにおける、気候変動の砂漠化・遊牧・ダストへの影響について考える」

日時：7月13日（木）13:00～17:00

場所：鳥取大学乾燥地研究センター

風送ダスト研究会と他の二つのプロジェクトの共催です：

- ・乾燥地×温暖化プロジェクト（鳥取大学）
- ・4D プロジェクト（代表：篠田雅人・名古屋大学）
- ・風送ダスト研究会（日本沙漠学会）

詳細は以下の pdf をご参照ください：<http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/news17/poster-0713.pdf>

片倉もとこ記念沙漠文化財団 2017 年助成事業（若手研究）公募のお知らせ

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろより、弊財団の事業活動へのご諒解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊財団では、このたび 2017 年度若手研究助成の公募を行うこととなりました。以下、募集要項概要をお送りいたします。詳細は、弊財団 HP (<http://moko-f.com/>) よりご確認くださいませ。

「片倉もとこ記念沙漠文化財団 2017 年助成事業（若手研究）」

【公募件数】 1 件

【募集期間】 2017 年 7 月 1 日～2017 年 7 月 31 日 17 時必着

【選考時期】 2017 年 9 月末（予定）

【助成額】 1 件につき最大 50 万円

【助成対象期間】 原則 1 年間（2017 年 11 月 1 日～2018 年 10 月 31 日、2018 年 11 月 30 日報告書提出）

【応募資格】 沙漠の研究を志す大学院生、若手研究者（39 歳以下）

※審査委員会において、研究歴などから大学院生・若手研究者相当と見なすことが妥当と判断される者は、40 歳以上であっても助成の対象とします。応募者の国籍、所属、居住地などによる制限はありません。ただし、十分な日本語能力を有することが条件となります。

【応募方法】 財団 HP (<http://moko-f.com/>) より申請様式をダウンロードし、必要事項を記入の上、E-mail にて事務局宛 (josei@moko-f.com) にお送りください。

メールの件名は「【若手研究助成】申請者名」としてください。

【その他】 詳細については「募集要項」および「申請書記入上の注意」をご確認ください。

以上、みなさまからのご応募をお待ちしております。また、ご関心ある方々へ広くご周知いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2017年 日本沙漠学会 秋季シンポジウムのお知らせ

乾燥・半乾燥地域における砂漠化，あるいは土地の荒廃が世界的に重要な課題であるとの認識が高まる中，本学会が1990年に設立され，2年後の1992年に国連砂漠化対処条約が締結され，既に30年近くが過ぎました．この間，砂漠化防止という課題解決に向けて，研究のみならず，国際的な大規模プロジェクトからNPO，NGOによる植林活動など多様な砂漠化防止に向けた活動が行われてきました．もとより砂漠化は単なる自然現象ではなく，社会の変容にともなう人為活動に強く影響された複合的な課題であり，必要とされる研究や技術も，その地域の自然，文化，社会に適合するかどうか，あるいは，長期的な地域の持続可能性や社会の受容性といった面からの検証が重要です．本シンポジウムではこうした観点から，アフリカ，中央アジア，東アジアで砂漠化防止に向けた研究・実践に取り組んできた3名の方々をお招きし，これまでの取組と課題を共有し，今後の研究の方向性を議論します．

日 時：2017年10月28日（土）13:00～17:00

場 所：筑波大学 東京キャンパス文京校舎 134 講義室

東京都文京区大塚 3-29-1

東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車 出入り口1より徒歩5分

http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html

テーマ：「砂漠化と向き合うー研究と実践の融合に向けてー」

プログラム：

13:00～13:10 開会挨拶・趣旨説明

13:10～15:20 第1部 話題提供

田中 樹（総合地球環境学研究所）

西アフリカ半乾燥地の脆弱環境に内在する地域ポテンシャルの発掘と活用

石田紀郎（京都大学名誉教授）

アラル海調査20年と旧湖底植林の報告

山中典和（鳥取大学乾燥地研究センター）

中国における乾燥地緑化の現状と課題

15:20～15:40 休憩

15:40～16:50 第2部 パネルディスカッション

16:50～17:00 総括・閉会

問い合わせ先

筑波大学 国際室 森尾貴広 morio.takahiro.fu@u.tsukuba.ac.jp

2017 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 吉川 賢
学会賞審査委員会委員長 豊田裕道

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的、実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は、原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお、35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には、その理由書を添付する。

2. 推薦期限 2018 年 2 月 28 日（水）当日消印有効

3. 推薦方法

以下の書類を期限までに学会賞審査委員会（幹事）宛に郵送して下さい。なお、推薦には「自薦」は含まれません。

- (1) 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合
様式 1 の推薦書 1 部
推薦に関する資料 1 組
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合
様式 2 の推薦書 1 部
推薦に関する業績 1 組

4. 宛先（照会先）

〒 263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学 文学部日本・ユーラシア文化コース気付
日本沙漠学会 学会賞審査委員会 幹事 渡邊三津子
TEL/FAX : 043-290-2327 E-mail: watanabe.m415@gmail.com

5. その他

応募された書類は返却しませんので、必要な場合は写しを保管下さい。

なお、過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ (<http://www.jaals.net/>) をご参照下さい。

様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用)

平成 年 月 日

日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用)

平成 年 月 日

日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど
著者名（共著の場合は全員）、題目、掲載誌名、巻号、頁、発行年を記載すること。

記入上の注意

- 1) 書 式 A4 縦置横書き、明朝体 12 ポイント、上下左右マージン 2.0cm 以上、1 行文字数 35～40 字、1 ページ行数 35～40 行
- 2) 被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい。
- 3) 推薦理由 箇条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい。
箇条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい。
- 4) 様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5. 資料はコピーなどを添付して下さい。
- 5) 様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5. 業績リストは研究業績の別刷り（コピー可）を添付して下さい。

学会記事

日本沙漠学会第 129 回理事会（新旧合同）議事録

日時：2017 年 4 月 15 日（土）13:00～15:00

場所：女性センターブーケ 21（東京都中央区）

現役員

出席：小島紀徳（会長）、吉川 賢、渡邊文雄（以上、副会長）、川端良子、鈴木伸治、田島 淳、矢沢勇樹、白石雅美、豊田裕道、森尾貴広、酒井裕司（以上、理事）、高橋新平、中村 徹（以上、監事）、安部征雄（顧問）、島田沢彦、橋 隆一、的場泰信、依田清胤、三角誠司、齋藤哲治（以上、オブザーバー）

委任状：田中 徹、吉崎真司（以上、理事）

次期役員予定者

出席：吉川 賢（会長）、渡邊文雄、森尾貴広（以上、副会長）、鈴木伸治、島田沢彦、高橋新平、中村 徹、酒井裕司、小島紀徳、窪田順平、小長谷有紀、豊田裕道、渡邊三津子（以上、理事）

I. 審議事項

1. 2017 年度総会への提出議案について

- ・資料に基づき、以下の議題について審議し、承認した。① 2016 年度事業報告（鈴木総務担当理事より報告）、② 2016 年度決算報告（矢沢財務担当理事より報告）、③ 2016 年度会計監査報告（中村監事より報告）、④ 2017～2019 年度日本沙漠学会役員案（審議事項 3 に同じ）、⑤ 2017 年度事業計画（鈴木総務担当理事より報告）、⑥ 2017 年度予算案（矢沢財務担当理事より報告）
- ・会員数と学生会員数について訂正があり、それぞれ 279 名、36 名とした。
- ・分科会の登録者数について、分科会での取りまとめに努めるとともに、分科会が登録者数を把握できない場合は、学会の名簿に登録されている入会時の情報を記載することとし、その旨を括弧書きで明記することとした。
- ・会計報告において、地球惑星連合会費と編集の委託費の支払いについての補足説明があった。
- ・3 年以上の会費未納者の取扱いについて、共立より滞納者の人数が示された。細則上では退会したものとみなされる場合があるとしているが、対象者に連絡を取り、対応を決定することとした。

2. 2016 年度学会賞の審査報告

- ・審査委員長の白石理事から、該当者なしとの報告があり、承認された。
- ・学会賞審査委員会より「自薦」の項目を内規に追加する旨の提案があった。効果が見えにくい、学

会賞推薦委員会を作ってはどうか、自薦の場合のガイドラインが必要ではないか、推薦基準を変えた方がいいのではないか等の意見が出され、今後の検討課題として次期会長に委ねることとした。

3. 2017～2019 年度日本沙漠学会役員について

- ・選挙管理委員長の田島理事から、選挙結果および経緯について説明がなされ、役員案が確認された。
- ・新理事会の監事について、矢沢理事と田中理事が推薦された。総会での承認を経て決定する。
- ・編集委員会、学会賞審査委員会の委員については、総会までに依頼する。
- ・財務担当について、主な業務であった会費の徴収と金銭の出納業務が共立に委託されたことから、財務を委員会体制にし、財政改善に対する活動を行ってはどうかとの意見が出され、今後の検討課題として次期会長に委ねることとした。
- ・安部征雄会員に顧問の継続を依頼するとともに、岩本彰会員に顧問への就任を委嘱した。

4. その他

- ・2017 年秋季シンポジウムについて、10 月 28 日（土）、筑波大学茗荷谷キャンパスで開催する。
- ・ICAL3（トルコ）は、2017 年 9 月の開催とされていたが、当該国の情勢から開催が困難である見通し。一方 DT XIII（インド）は、2018 年 3 月 12～16 日にチェンナイで開催する。ICAL3 を DT XIII に吸収することが検討されている。
- ・DT と ICAL について、固有の銀行口座を開設することとした。代表者は学会長とする。本学会の主たる業務と明確に分けて運用する。本学会の予算で DT と ICAL の預託金を計上して執行し、余剰が出た場合は、必ず本学会に戻すこととする。本口座の会計報告は理事会で行う。過去に、招聘経費や印刷経費の運用が難しいケースもあったことから、運用規定（日本語版・英語版）の作成を検討する。
- ・2018 年度の第 29 回学術大会は、石巻専修大学にて 5 月 26～27 日に開催されることとなった。
- ・2018 年秋季シンポジウムは鹿児島大学での開催が決定している。2019 年度の第 30 回学術大会を酪農学園大学に打診することとした。
- ・日本郵便（郵便審査事務センター）における登録と学会誌の見本の提出について、登録を継続することとした。学会誌を提出する。
- ・他学会等からのセミナー等への協力依頼（共催・協賛）に関する対応や Web ページでの掲載につ

いて、原則として、金銭的な協力が必要でない場合は、会長、副会長、理事への連絡のみでよく、金銭的な協力が必要な場合は、理事会（メール審議含む）での承認が必要であることを確認した。

- ・書籍の書評について、渡邊会員（新理事予定）に依頼した。
- ・日本地球惑星科学連合第16回学協会長会議とH29年度定時社員総会（5/23、幕張メッセ）について、窪田会員（新理事予定）に代理出席を依頼した。

II. 報告事項

- ・編集委員会より、配付資料に基づいて、学会誌の原稿の取りまとめについて進捗が報告された。

III. その他

- ・第130回理事会は、2017年5月27日（土）の第28回学術大会（千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス）において開催する。

日本沙漠学会第30回評議員会 議事録

日 時：2016年4月15日（土）15:00～17:30

場 所：女性センターブーケ21（東京都中央区）

出席評議員（現評議員）：

小島紀徳（会長）、吉川 賢、渡邊文雄（以上、副会長）、川端良子、酒井裕司、白石雅美、鈴木伸治、田島 淳、豊田裕道、森尾貴広、矢沢勇樹（以上、理事）、高橋新平、中村 徹（以上、監事）、岩本 彰、牛木久雄、的場泰信、渡邊三津子

委任状：田中 徹、吉崎真司（以上、理事）、上原有恒、西牧隆壯

現評議員以外の出席：

安部征雄（顧問）、島田沢彦、橘 隆一（以上、総務委員）、窪田順平、小長谷有紀（以上、次期理事予定者）、児玉香菜子、菅沼秀樹、藤巻晴行（以上、次期評議員予定者）、依田清胤、三角誠司、齋藤哲治（以上、オブザーバー）

欠 席：石川祐一、北村義信、篠田 裕、鈴木 潤、縄田浩志、平田昌弘、松本 聡、山田パリーダ（以上、評議員）

出席評議員（委任状含む）が定数（29名）の1/3以上を満たしていることが確認され（細則第6章第22条）、会長を議長として評議員会が開催された。

I. 審議事項

1. 2016年度事業報告・決算報告・会計監査について
 - ・総務担当理事（鈴木）および財務担当理事（矢沢）より説明がなされた。
 - ・事業報告について、2016年度総会において承認

された「学会業務の一部外部委託について」を加えるべきとの意見があり、資料の会務報告に加えることとした。

- ・決算報告における収入の部の会費の納入率や出版費に関して質問があり、説明を行った。
2. 2017年度事業計画（案）・予算（案）について
 - ・総務担当理事（鈴木）および財務担当理事（矢沢）より説明がなされた。
 - ・DT XIIの発表論文の出版費を収入に加える。この他記述の修正等の指摘があった。

II. 報告事項

1. 学会賞の表彰について
 - ・学会賞審査委員会（委員長：白石理事）による選考の結果、2016年度は該当者がなかったことが報告された。
2. 2017～2019年度日本沙漠学会役員について
 - ・選挙管理委員長の田島理事から、選挙結果と経緯について説明がなされるとともに、役員案が示された。新理事会の監事について、矢沢理事と田中理事が推薦された旨、報告された。
 - ・顧問として、安部征雄会員に継続が依頼されたことに加え、岩本彰会員に委嘱されたことが報告された。
 - ・総会資料において、選挙で選出された役員と会長指名の役員とを分けて記載すること、また会務委員会は「参考」として記載することとした。

III. その他

- ・第28回学術大会（千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス）について、当日のエレベーターの稼働が8:30からであることがアナウンスされた。それ以前に会場に入るには事前登録が必要。その他、懇親会の会場の規模等についてアナウンスがあった。参加の有無にかかわらず、大会参加申し込みはがきの投函が必要。
- ・拡大編集委員会を、5月26日（金）の18:00より、工学院大学新宿校舎1913教室にて開催する。

日本沙漠学会第130回理事会 議事録

日 時：2017年5月27日（土）11:40～12:20

場 所：千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパスミーティングルーム

出 席：小島紀徳（会長）、吉川 賢、渡邊文雄（以上、副会長）、川端良子、酒井裕司、白石雅美、鈴木伸治、田島 淳、田中 徹、豊田裕道、森尾貴広、矢沢勇樹（以上、理事）、高橋新平、中村 徹（以上、監事）、安部征雄（顧問）、島田沢彦（総務委員）、岩本 彰（次期顧問予定者）、窪田順平、渡邊三津子（以上、次期理事予定者）、

三角誠司, 齋藤哲治 (以上, オブザーバー)

委任状: 吉崎真司 (理事)

I. 総会の進行について

- ・正会員と名誉会員の人数 284 名に対し, 委任状 69 名, 会場に 40 名余であることが鈴木理事から報告があった.
- ・議長を, 酒井理事の推薦により藤巻晴行会員 (鳥取大学乾燥地研究センター) に依頼することとした.
- ・議事進行について確認がなされた. 事業報告・事業計画 (案) については鈴木理事が, 決算報告・予算 (案) については矢沢理事が説明する. 会計

監査報告については中村監事が, 役員選出結果の報告は田島理事が行う. また, 学会賞審査委員会報告を白石理事が行う.

II. 学術大会の進行について

- ・ベストポスター賞の審査および表彰の手順について確認した.

III. その他

- ・DT と ICAL について, 固有の銀行口座を開設した (代表者: 学会長). また DT と ICAL の運営を検討する委員会の設立が提案された.
- ・第 131 回理事会は, 2017 年 7 月 8 日 (土) 15:00 ~ 開催する.

* * * * * 会 員 動 向 * * * * *

●新入会員

学生会員 (2016 年度入会)

巴 依 尔 塔 (ID:1101, 千葉大学文学部日本・ユーラシア言語文化コースユーラシア言語・文化専修)

学生会員 (2017 年度入会)

宝 龍 (ID:1110, 東京農工大学連合農学研究科)

西川 優花 (ID:1111, 大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻)

●退会会員

正会員

伊藤 玄三, 桑島 健也, 菅沼 浩敏, 高見 茜,
水野 一晴, 村治 笙子, 山根 典子

~~~~~ 賛助会員・団体会員名簿 ~~~~~

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel : 042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel : 03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	164-8721	東京都中野区本町 1-32-2	Tel : 03-5354-3621
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel : 0424-95-1060